



田崎学舎

㊦のしく ㊦わやか ㊦れいな 我らが学び舎
【合い言葉】… 高みを求めて一步前進

エンジンとしての心

校長 岩戸 淳

国語の教科書教材として長く採録され続けている「大造じいさんとガン」の作者、椋鳩十（本名・久保田彦穂）の本「夕やけ色のさようなら」椋先生が遺した33章（理論社）からの抜粋をご紹介します。

知識というやつは、人間の世界を、無限に近いひろがりをもって拓いていくものだし、人間の行動の梶みたいなので、極めて、大切なものであると私は考えている。

けれど、この強力な知識に、目がくらんでしまつて、幼い頃から、知識一辺倒では困るのである。何といつても人間あつての知識である。その人間に、匂いのようなものをあたえるもの、夕焼けの空のような美しさを与えるもの、それは情緒である。

その人間の、言葉や行動に、厚みをあたえるもの、幅とやわらかみをあたえるもの、それは、もの思う心である。

その人間に、勇気をあたえ、はるかなる理想を、まねき寄せんとする原動力は、正しきものへの感動である。

こういう心は、知識を、生かすところの原動力である。こういう心を失った孤立した知識は、エンジンを失った船の梶のようなものであろう。

幼い日の子どもの中に、エンジンとしての心を、しっかりと植えこんでいくものは母親の語り聞かせる、物語であると思う。

美しく、優れた物語であると思う。

椋鳩十の作品に描かれた自然の厳しさと偉大さ、そして、その中で生きる人間と動物の命、生き方を尊ぶ精神は、時代を超えてなお輝きを増し、私たちにその意味を問いかけて続けているようです。

「親子のふれあい」を大切に！

おや こ

親子の20分間読書

ぶん かん しく

鹿屋市教委のパンフレットから

「親子のふれあい」を大切に！

読書は、子どもが言葉や文字に慣れ、豊かな想像力や表現力を育むのに大切な活動です。毎日の生活の中で、親子で一緒に読む時間を大切にしたいですね。

「親子のふれあい」を大切に！

読書は、子どもが言葉や文字に慣れ、豊かな想像力や表現力を育むのに大切な活動です。毎日の生活の中で、親子で一緒に読む時間を大切にしたいですね。